

アルバイトは社会に どんな影響を与えている？

＜中京大学経済学部3年 近藤健児ゼミ＞

早川翔登 岩田圭市 金崎涼太

石川輝 川崎琉衣

目次

1. 研究の背景
2. 研究目的
3. 課題
4. 仮説
5. 先行研究
6. アンケート結果と分析
7. 考察
8. まとめ

1. 研究の背景

- 大学生によるアルバイト活動は様々な業界を支える**重要な存在**
- 24年時点でアルバイトをする大学生の割合は**71.1%**

2. 研究目的

本研究は、アルバイト労働が**社会全体に与える影響**について分析し、どこまで**影響**を与えているか明らかにすることを目的とする。

これにより、持続可能な社会におけるアルバイトのあり方を検討する。

3. 課題

- バイトに頼りすぎる企業の業務構造
- 勤務条件や待遇の差が生じやすい
- 労働力不足の現場では、サービスの質や効率に直結している

4. 仮説

学生アルバイトは社会に大きな影響を与えている

<研究方法>

- **文献調査**
- **アンケート調査（学生）**

5. 先行研究①

①「日本の労働市場の変質と 非正規雇用の増加 ～同一労働同一賃金をめぐって」

著者：樋口 美雄（慶応義塾大学教授）

発行年：2018

発効媒体：日本労働研究雑誌691特別号頁：39-49

＜研究内容＞

- 短時間労働者や有期労働者などの非正規労働者に対する需要の増加に対して、労働需要・供給の両面から 考察し、そこで発生している課題を明らかにしている
- 労働市場の変質をマクロ視点で捉えており、企業や政府による非正規活用戦略についての言及が中心にある

＜研究に対する評価＞



- 労働市場全体を俯瞰した構造分析
- 非正規雇用の増加がなぜ起きたのかを制度・経済構造・企業の戦略の観点から整理している
- 統計データの豊富な活用



- 学生アルバイトへの言及が弱い
- 現場レベルでの影響分析が乏しい
- 店舗などでの実態や事例分析がない
- 企業が学生バイトをどう活用しているかなどの具体的な考察が少ない

＜差別化ポイント＞

- ・ 現場レベルでの学生バイトの機能分析

→飲食店や小売店での学生のスキルやシフト対応力など即戦力としての貢献事例を挙げる

- ・ 文化・価値観への影響

→企業文化やサービス提供における若者世代の導入事例を分析

5. 先行研究②

②『日本における学生アルバイトの労働問題』

著書；今野晴貴 NPO法人『POSSE』代表理事

発行年：2024年

発行媒体：社会政策学会誌『社会政策』第16巻第1号

＜研究内容＞

- 2013年以降、親の所得減少や学費高騰、奨学金制度の課題を背景に、学生アルバイトの労働問題が顕在化

→生活維持や学費負担のために不可欠な収入源となってお、労働時間や業務内容が正社員に近づく傾向がある

- 既存の事例研究が多い一方で、「問題をどう分析すべきか」という理論的枠組みが十分整備されていない点を指摘

→学生バイト問題の分析には複数の理論枠組みを組み合わせる必要があることを示している。

＜研究に対する評価＞



- ・ 最近の労働実態を把握
→最近の論文のためコロナ過以降の変化もカバー済み
- ・ 学生アルバイトに特化した研究



- ・ 社会に与える影響には焦点が薄い
→労働力の補完といった話はあるが中心は学生が受ける問題が多い
 - ・ ミクロ視点の具体性が不足している
- 店舗・企業・地域における学生が担う機について論じられていない

<差別化ポイント>

- ・ 社会貢献の可視化

→学生アルバイトが企業・地域・サービス業に
どう役立っているかを具体的に検証

- ・ 労働文化、組織変容への影響

→学生が働き方や、職場文化にどんな変化をも
たらしているか

5. 先行研究③

③『留学生の資格外活動に与える要因 —国籍要因と地域経済要因—』

著書：高橋義明 明海大学 経済学部 教授

発行年：2020年

発行媒体：社会政策学会誌『社会政策』第12巻第1号

＜研究内容＞

日本全国の留学生のアルバイト状況（学業を続けながらの就労）を、約30万人の大規模データで分析

資格外活動許可の取得と関係ある国籍要因と産業構造を明らかにすることを目的としている

→留学生は地域の労働力補完という機能を果たしている

→飲食店やコンビニだけでなく何の職に就くかは地域構造が関係している

＜研究に対する評価＞



- 社会的貢献の可能性に言及している点

→留学生が人手不足を補う労働力として地域経済を支えている側面に注目している。

- 地域経済構造と国籍要因によって留学生のアルバイト就労が左右されていることを明らかにした点



- 日本人学生の扱いがない点

→留学生に特化しているため日本人学生バイトとの比較はおこなわれていない

- 現場の変化や主観的経験の分析がない

→統計データが中心となっているため学生自身は社会貢献にたいしてどう感じているのかが分からない

<差別化ポイント>

- ・ 対象の違い

- 日本人学生バイトを対象とする

- ・ 具体性

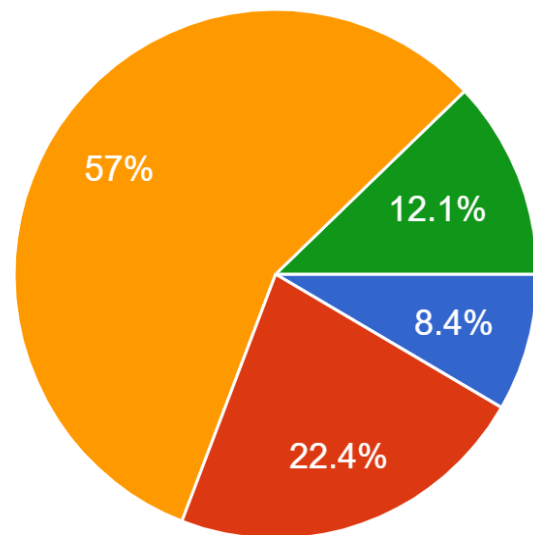
- 統計データではなくアンケートをベースにすることで学生本人の声を聴き、現場レベルでの学生の労働力としての役割を見る

6. アンケート結果と分析

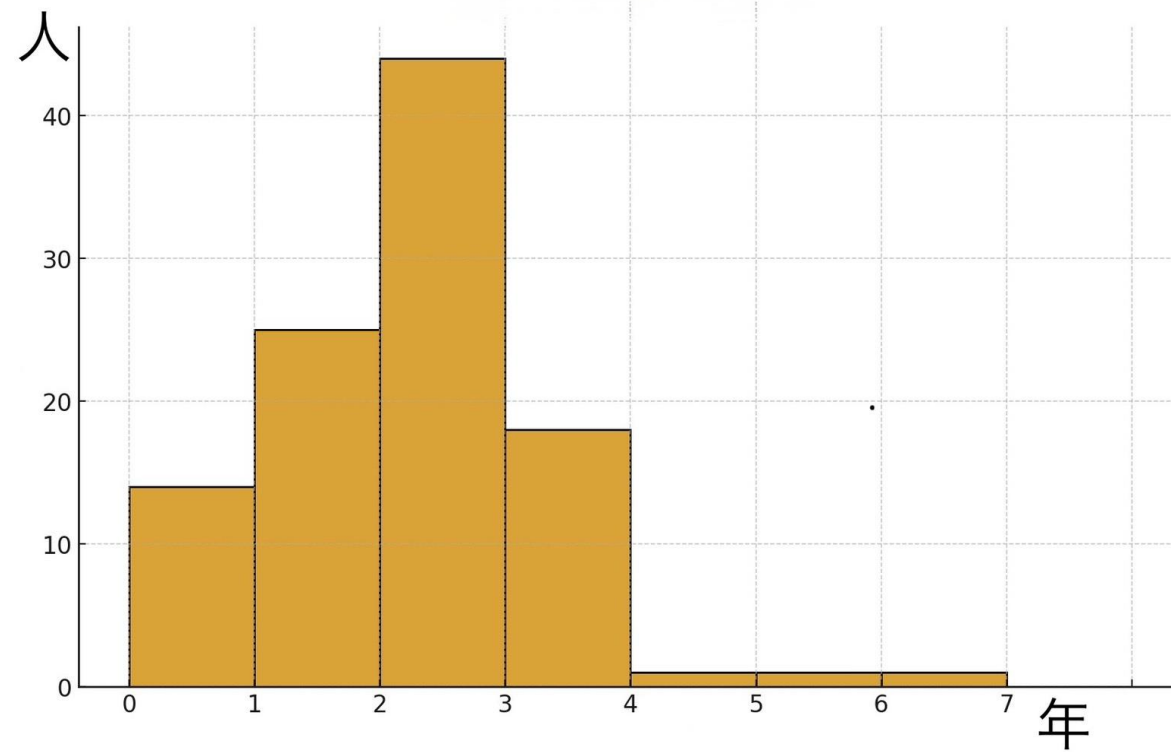
質問内容

- 学年
- アルバイト歴
- 業種
- 時給
- 週の勤務時間
- バイトを始めた理由
- 勤務先は正社員が中心となっているか
- 勤務先の人手は十分か
- アルバイトがいないと業務に支障が出るか など

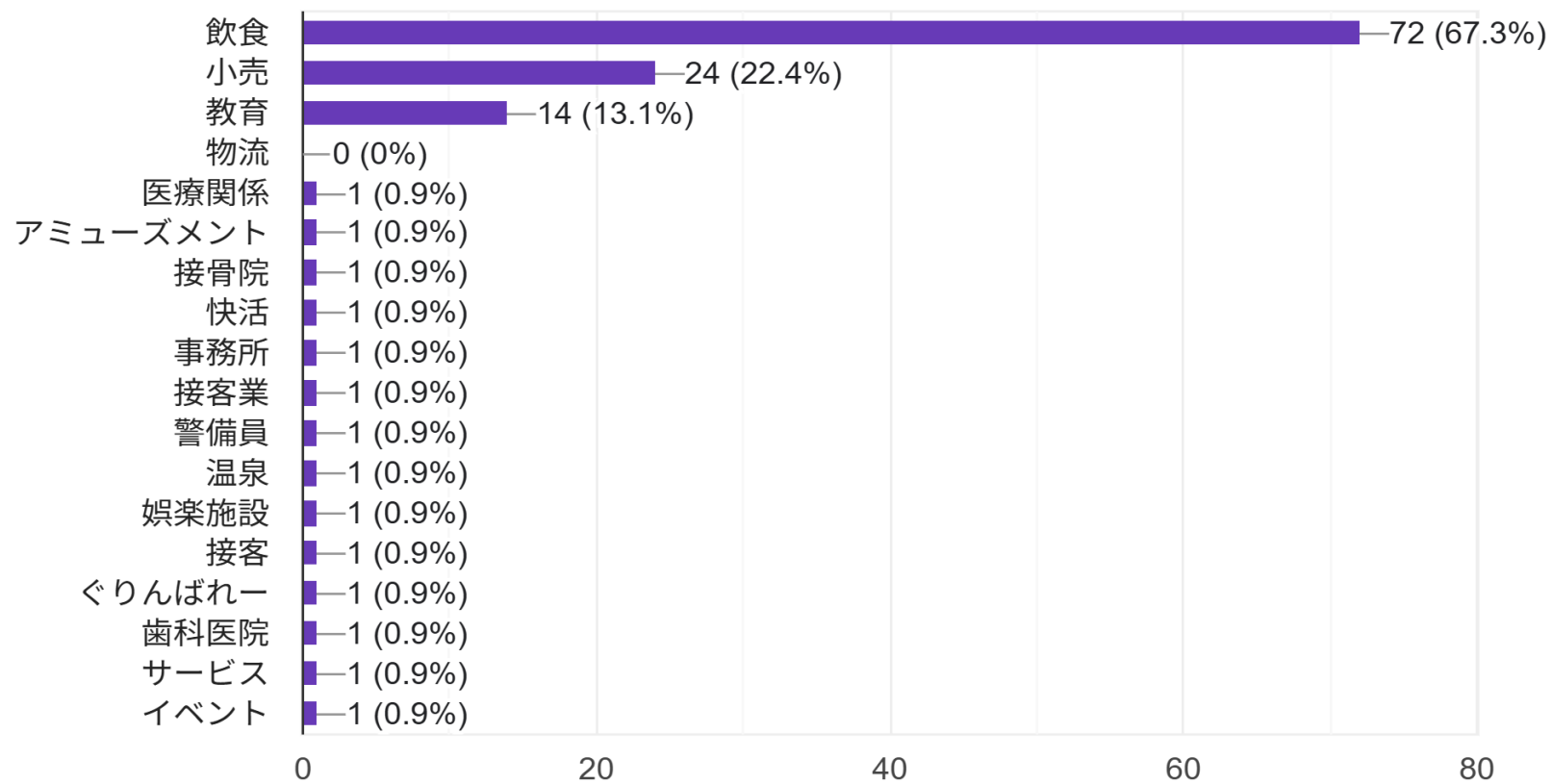
- 学年



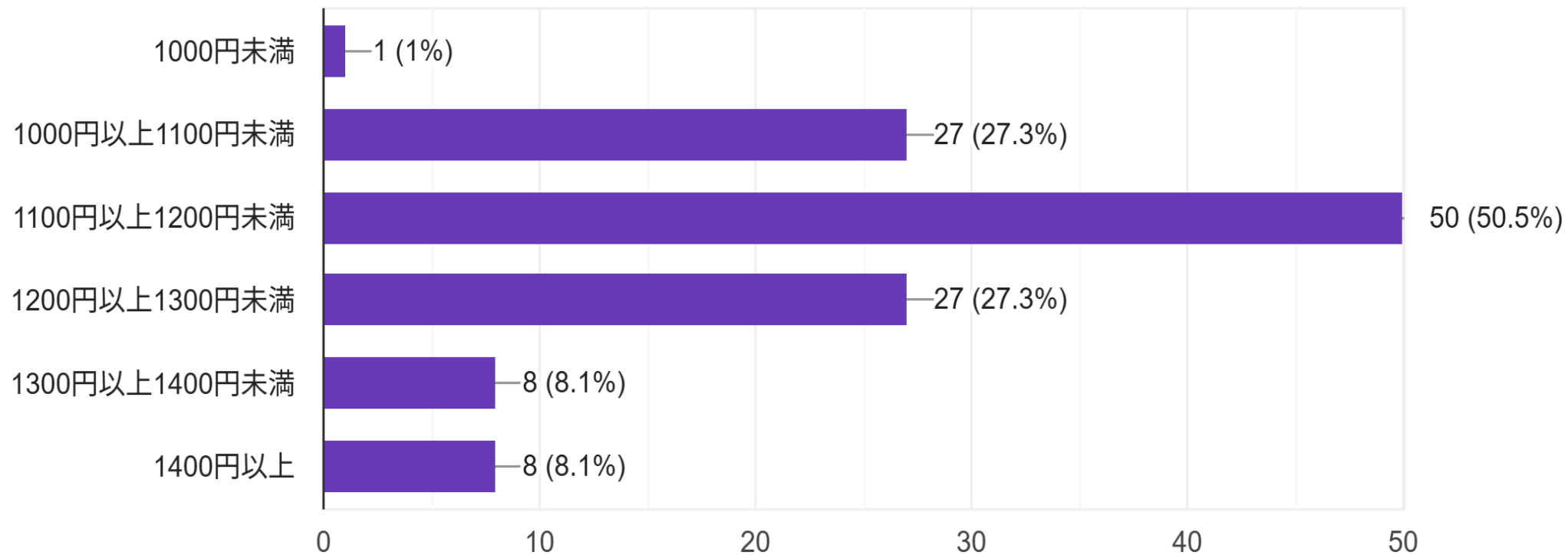
- アルバイト歴



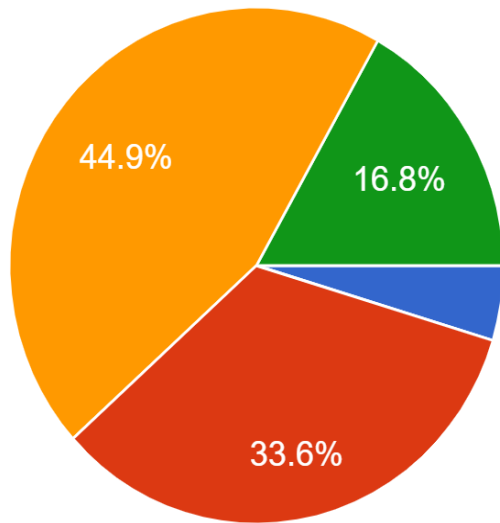
● 業種



- 時給

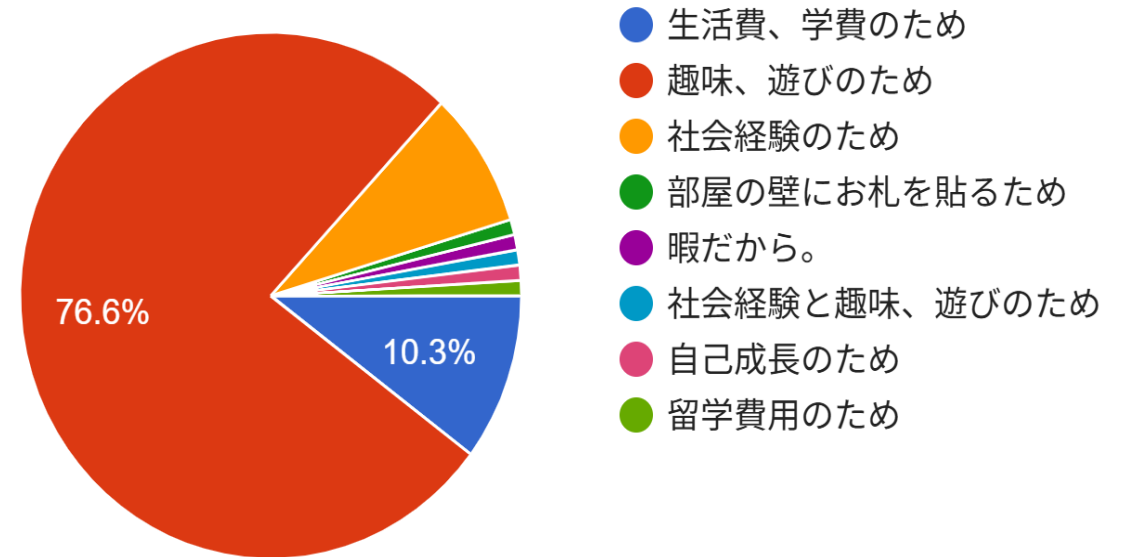


• 週の勤務時間



- 5時間未満
- 5～10時間
- 10～20時間
- 20時間以上

• アルバイトを始めた理由

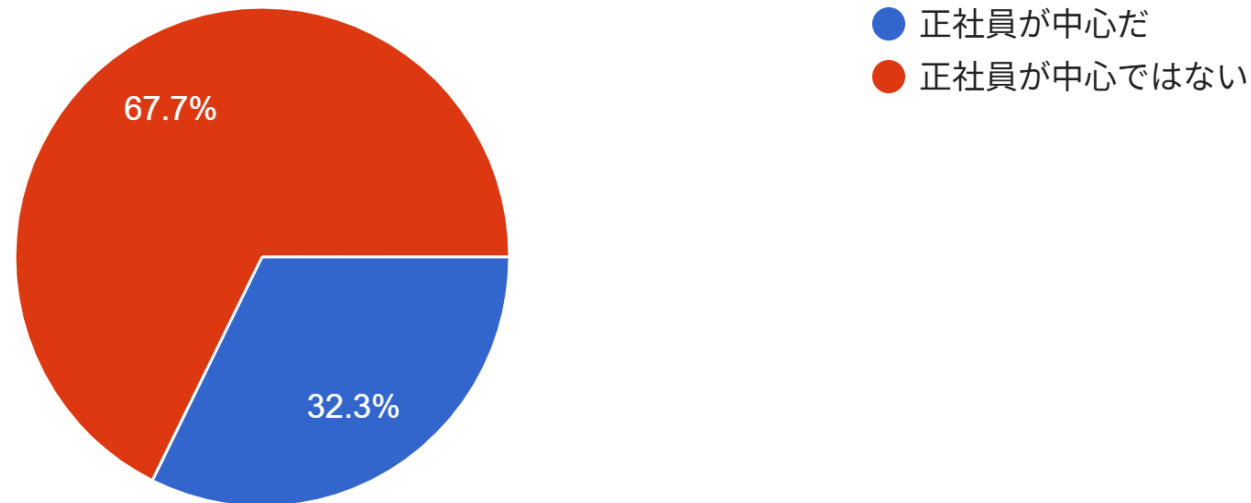


- 生活費、学費のため
- 趣味、遊びのため
- 社会経験のため
- 部屋の壁にお札を貼るため
- 暇だから。
- 社会経験と趣味、遊びのため
- 自己成長のため
- 留学費用のため

7. 考察

- アルバイトが学生の生活・社会参加の一部になっているといえる。
- 学生が入りやすく、シフトの自由度が高い業種に集まっている印象。
- 学業との両立を意識しつつも、一定の労働時間を確保
- 自己消費型アルバイトが主流
- 「若者の社会化の場」としても大きな意義を持っていることがわかる

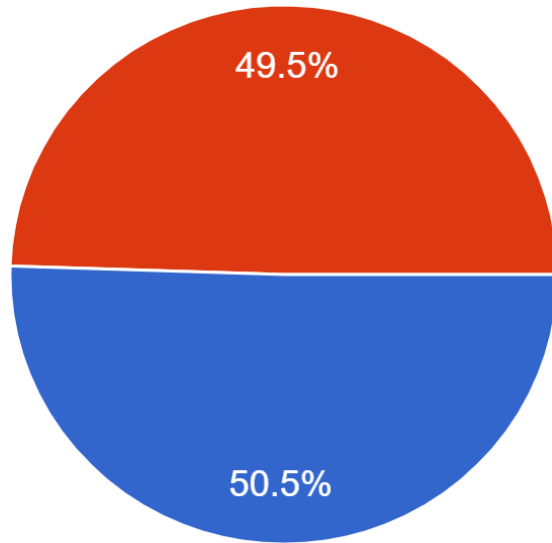
- 勤務先は正社員が中心となっているか



<グラフからわかること>

- 学生は組織運営の一部を担う存在になっている。
- 学生が「正社員の代替労働力」として扱われている問題も

- 勤務先の人手は十分であるか

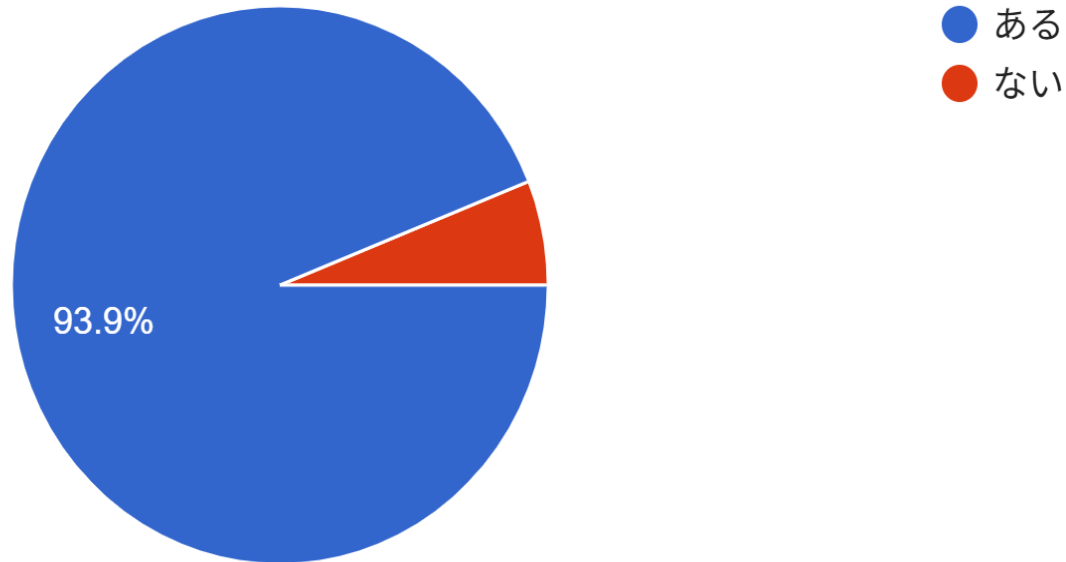


● 十分
● 十分ではない

＜グラフからわかること＞

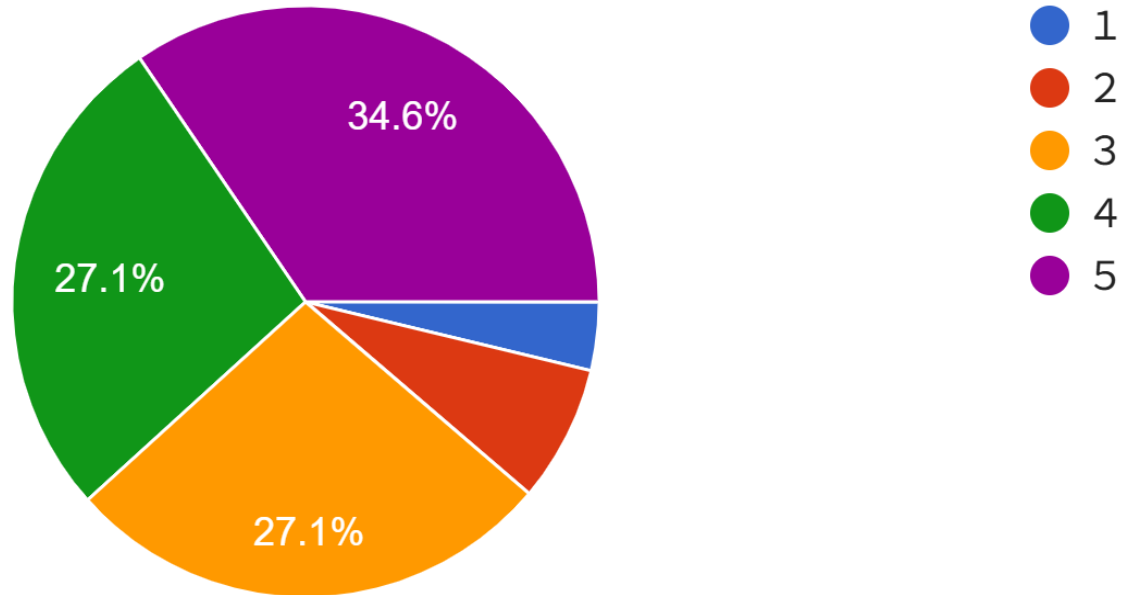
- 人手不足を感じている職場がかなり多い
- 特に、飲食・小売などサービス業の構造的課題である人材不足が、学生にも直接的に影響していることを示している。

- アルバイトがいないと業務に支障があるか



- ＜グラフからわかること＞
- 欠かせない労働力となっている。
 - 多くの業種が学生に依存しており、学生なしでは業務が成立しない構造になっている。

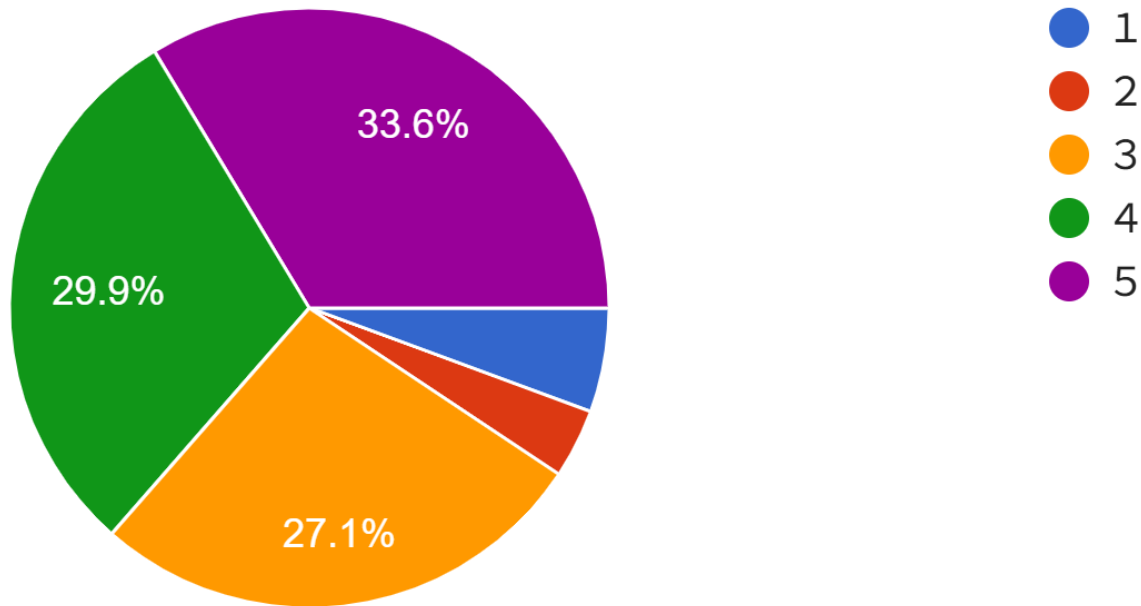
- 自分の労働が現場で戦力となっていると感じるか



<グラフからわかること>

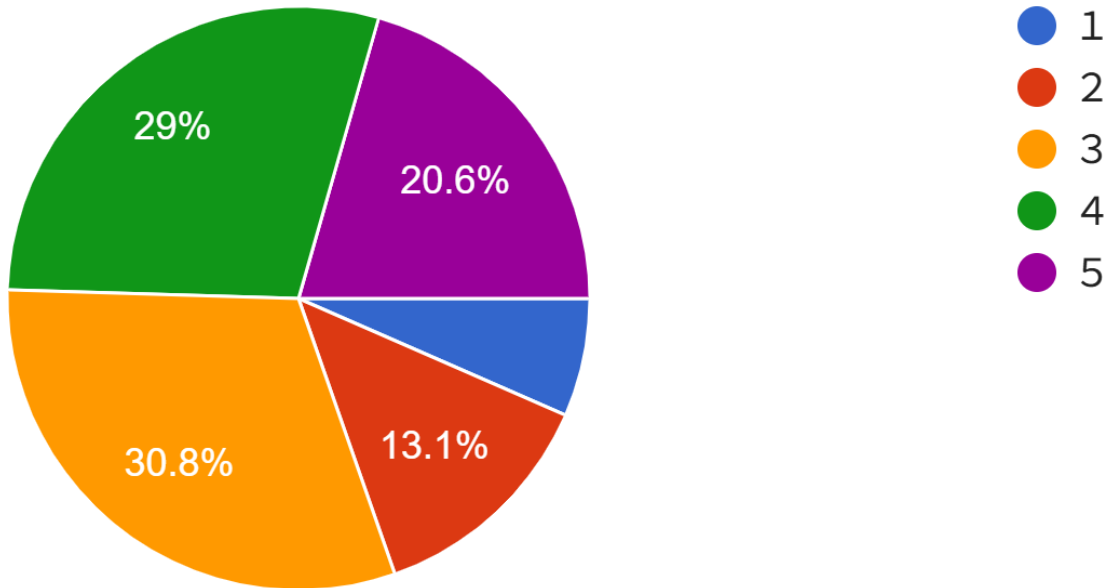
- 現場も学生も、互いに「学生が重要な戦力」と感じている
- 貢献実感の乏しい層も一定数存在し、職場における教育的配慮・評価の仕組みの充実が今後の課題である

- アルバイトで企業や社会の仕組みを知れた



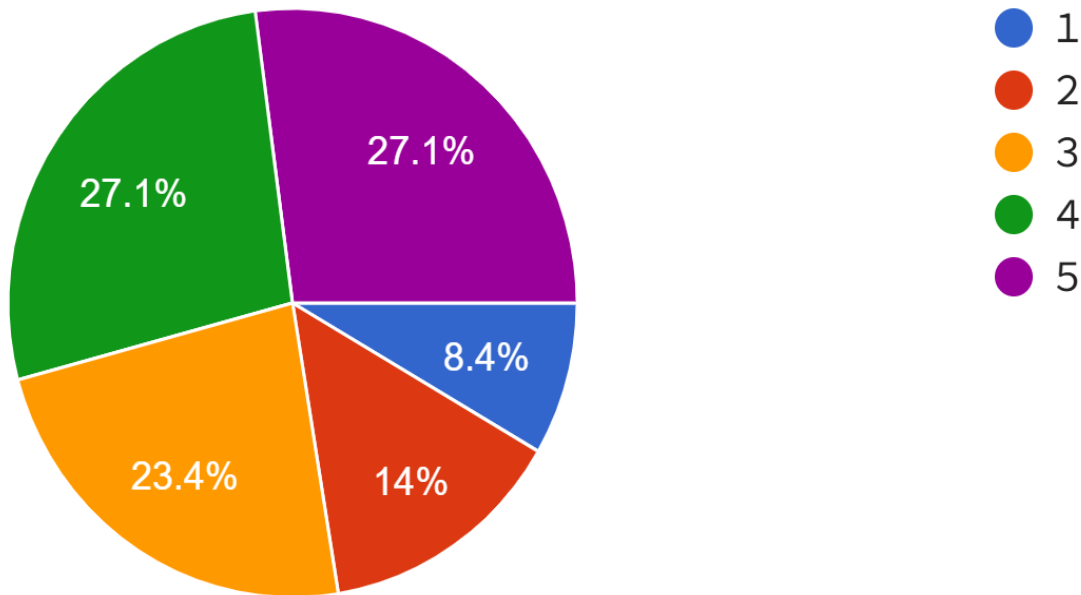
- <グラフからわかること>
- 社会的視野の拡大が進んでいるといえる。
 - 社会人としての基礎的な学びにつながっている。

- 自分の働き方が、現場の雰囲気や文化に影響していると思う



- <グラフからわかること>
- 職場の人間関係やチーム文化を形成する一員として自覚的に関わっている
 - 実感できない学生もあり、職場内での交流・評価・役割意識の向上が必要。

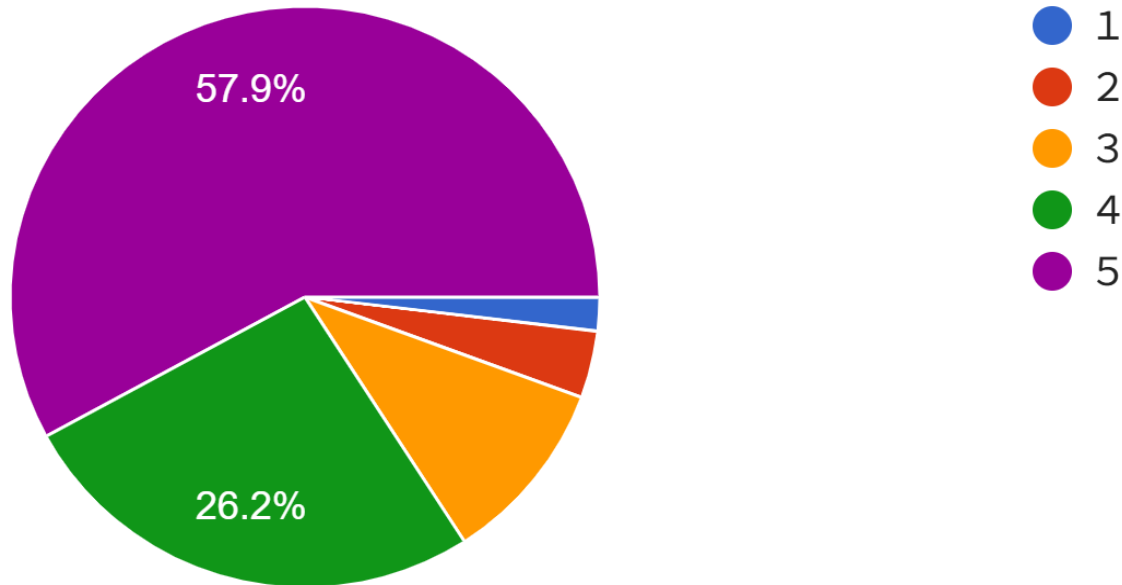
• 勤務先の正社員が学生バイトに頼りすぎているか



＜グラフからわかること＞

- 単なる補助ではなく、現場を支える主力労働力となっている
- 「自分たちがいなければ仕事が回らない」という半ば責任感と不満の混在した意識がうかがえる。
- 学生自身が「正社員が頼りすぎている」と感じるほどに依存が進んでおり、人手不足による構造的な労働力依存が明確になっている

- 学生アルバイトが日本社会に必要だと思う



<グラフからわかること>

- 単なる「お金のため」ではなく、社会の一員として役割を果たしている自覚している
- 日本の労働構造の脆弱さと再構築の必要性を示す

• 社会に貢献できていると感じたエピソード

- 社員と同じように働き、お客様に商品を提供できているという点。
- 怪我が治ったり良くなったりした患者さんに「ありがとう」と言われたこと。
- 人手が足りない日は積極的に貢献できている
- お客さんや、社員の人に感謝された時。
- 若年層が少ない現在の社会で、若年層の一人として働いていること。
- 運営に協力し自分の出した提案で数字の伸びを感じたこと。
- 教え子が志望先に合格した時。
- 笑顔で接客することで顧客の気分や店の雰囲気良くなり、結果的に社会に貢献できていると感じる。
- 配達業なので、共働きや子育てが忙しい家庭、病気や障害で外出しにくい人にとって役に立てていると思う。
- 忘年会などの会社にとって大切なイベントを勤務先の店舗で行われることが多いため社会に貢献できているのではないかなと思う。

• 企業、社会が学生アルバイトに対して改善すべき点

- 指導すべき場面では時間を儲けて行うべき
- 扶養の拡大、意見をいいやすい職場
- 学生バイトに対してもう少しマニュアル的なものを用意し、より働きやすい環境を作る
- 最低賃金に近い給料で雇っているという自覚を持って欲しい
- シフトの変更に柔軟性を持って欲しい
- バイトが戦力になりすぎてから時給あげてもいい
- 新人の教育などもバイトが全てやるのはおかしい。
- 正社員が少なく人手不足の職場で働いているが、金銭的な労働制限により十分に勤務できず、改善が必要だと感じる。
- アルバイトは定期的な収入とは言い難い為、所得税を控除すべき。また学生には国が扶養を負担すべき。
- 新人に求めすぎていると感じる。能力やペースは人それぞれであり、無理のない範囲で少しずつ成長を支えるべきだと思う。

7. 考察

＜社会的影響＞

- 学生は現場を支える即戦力として働いており、正社員不在の場面で業務を維持する重要な存在。
- 働くことを通じて社会的責任感・自己効力感・協調性・対人スキルを身につけている
- 学生自身も自分の存在意義を認識

7. 考察

＜問題点＞

- ・アルバイトへの過剰依存
- ・学業や生活との両立に影響するリスク
- ・一部の学生は社会の仕組みを理解できず、戦力としての自覚が薄いため、アルバイトの学び効果が均等でない
- ・働きやすさや公正な待遇に課題がある。

＜解決策＞

- ・ 正社員とアルバイトの役割分担の明確化
- ・ アルバイトの成果や貢献を評価するフィードバック制度の導入
- ・ 時給、福利厚生、所得税・扶養面の見直し

8. アンケートのまとめ

- 学生アルバイトは、日本社会において**不可欠な存在**であり、同時に**社会を学ぶ教育の場**でもある。
- **適切な支援と制度整備**を通じて、学生の成長と社会的貢献の両立が可能である。

8. 全体のまとめ

- 学生アルバイトは、社会の人手不足を補うだけでなく、地域経済の維持や若者の社会参加の機会を生み出す重要な役割を果たしている。
- 今後は、学生が安心して働ける環境整備と、教育・労働のバランスを取る仕組みづくりが必要である。
- 本研究を通じて、アルバイトを単なる「労働」ではなく、社会の一部として再評価することの意義を確認できた。